

教員の意識を変える 市原市のGIGAスクール環境



市原市立国分寺台西小学校校長（前市原市教育センター指導主事）

いた いさお
生田 勲

1 市原市のICT環境の概要

令和2年11月に、千葉県の市の中では最も早く1人1台タブレット端末を整備するとともに、県内初で市内全普通教室にボード一体型電子黒板を設置した。

全てのタブレット端末には各種授業支援ソフトウェアを導入しており、高速大容量のインターネット環境も同時に整備した。

2 主体的・対話的で深い学びの実現のためのICT活用

(1)市原市GIGAスクールの概要

IchiHaRa 市原市GIGAスクールの概要 市原市教育委員会

●学力を基礎にして、必要な情報を収集・分析し、それを活用して主体的に課題解決する子どもの育成

「GIGAスクール構想」とは

- 1人1台タブレット端末と高速大容量の高速ネットワークを一体的に整備する
- 多様な子どもたちを誰一人取り残さず、公正に教育機会を保障し、個性・能力を積極的に伸ばせる教育環境を整備する
- ITの活用により従来の子どもたちの学びを超越する。これまでの教育実践とITのベストミックスにより、個性・能力を伸ばせる教育環境を整備する

市原市GIGAスクールを促す仕組み

- 1人1台タブレット端末と高速大容量の高速ネットワーク（児童生徒、教職員）
- 授業での活用実践
 - 電子黒板
 - 授業支援ソフト（動画共有など電子黒板との連携）
 - 電子教材・ソフト
 - デジタル教材（指導者用・生徒用）
 - 電子黒板・電子教材・授業支援ソフト
- 学習環境の整備
 - Wi-Fi環境（学習状況に応じて出される電子100%）
 - Wi-Fi環境（学習状況に応じて出される電子100%）
 - 電子黒板・電子教材（GIGA）の活用
- 指導者・保護者の支援
 - オンライン研修とコンテンツ
 - 指導者・保護者の支援
 - ICT活用による授業実践（各教員の課題を解決）
 - ICT活用による授業実践（各教員の課題を解決）
 - 指導者・保護者の支援（各教員の課題を解決）
 - 指導者・保護者の支援（各教員の課題を解決）

市原市GIGAスクールの考え方

従来の学習・授業方法の継承

- 1人1台タブレット端末を基本に活用する
- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す

ICT →

図1

(図1)

市原市GIGAスクール構想では、まず二つの目標を設定した。一つは、最終ゴールとなる最上位目標、もう一つは、スムーズな導入かつ活用のための段階的目標である。(図1)

最上位目標は、「学力を基礎にして、必要な情報を収集・分析し、それを活用して主体的に課題解決する子どもの育成」とした。

四つの段階的目標は、

I……InnovativeIntroduction（1人1台タブレット環境に慣れることを目指す）

C……Class-Use（授業の中でのより効果的な活用を進め、効率的で理解が深まる授業を目指す）

H……Home-Use（自宅に持ち帰り、予習や復習などの家庭学習に役立てることを目指す）

R……Re-Innovation（新たな授業の構築、個別最適化を目指す）

とした。

(2)さまざまな学習コンテンツ

①AI電子ドリルの活用

タブレットの持ち帰りの課題を解決するために、市原市では、WiFi環境がなくてもオフラインで利用できるドリル学習環境を整備した。

②ボード一体型電子黒板の活用

GIGAスクールのスピード感を持った実現のために、全普通教室にボード一体型電子黒板を整備した。実際の電子黒板の活用では、ホワイトボード機能のほかに、タブレット連携、TV会議による交流授業、指導者用教科書の提示など様々な場面で活用することができた。

③オンライン会議システムの活用

市原市では、様々なオンライン授業にも挑戦してきた。授業例としては、

- ・ニュージーランド現地校との交流授業
- ・自動車工場とのオンライン社会科見学など、多くの授業実践ができた。

④協働学習支援システムの活用

効果的な授業を行うためには、教員と生徒間を常時接続し、教材配信、画面転送などをシームレスに利用できる環境を導入し、双方向型の授業を実現してきた。

⑤電子黒板を活用した授業コンテンツ作成

電子黒板と指導者用デジタル教科書を活用し、振り返り学習に役立つオンライン授業コンテンツを作成し、いつでも配信できる仕組みを構築してきた。

⑥オンライン動画配信システムの活用

誰でも簡単に動画を配信できる仕組みをGIGAネットワークの中に独自に構築した。これにより、学校は安心して動画を配信できるようになった。

⑦指導者用デジタル教科書の活用

全小中学校に指導者用デジタル教科書のエッジサーバを整備したことにより、どのデバイスからも利用でき、GIGAスクール活用がかなりすすむことになった。

(3)GIGAスクールを支える仕組み

①Intuneとアプリストアの開設

アプリ利用を安全に行うために、市独自のアプリストアとして利用できるIntuneポータルサイトを構築した。様々なアプリを自由に管理・運用できるようになった。

②GIGAスクールアドバイザーとGIGAスクールWEBマガジン



(図2)

GIGAスクールアドバイザーを整備して、市原市全体が一丸となってGIGAスクール推進に安心して取り組めるようにした。そのアドバイスは、「市原市GIGAスクールWEBマガジン」として定期的に市内全教職員、教育委員会関係職員に配付し、150号を数えた。(図2)

3 児童生徒の情報活用能力、活用効果

(1)児童生徒の情報活用能力

市原市では、独自に作成した情報活用能力調査を実施した。

主な成果としては、機器の扱いに慣れ、自由に使いこなしていると考えられる。しかし、課題としては、自分自身を表現するツールとしての使いこなしに難しさを感じている児童生徒が多く見られた。

(2)活用効果

- ①電子黒板の整備によりICTを苦手とする教員も、デジタル教科書を映して、使ってみようという意識が変わってきた。
- ②多くの授業研究において、利活用されている。また、通常の授業や家庭学習など、タブレット端末が日常的に活用されている。
- ③教員も児童生徒も、よい授業を創ろうとする意識が高まってきている。

4 最後に

私は、GIGAスクールの成功の秘訣は、教員が使いやすい環境を整備することで、新しい教育、授業づくりをしていくための意識を変えていき、行動が変容していくことだと思いい、今のこの仕事を精一杯務めている。

誰もが簡単に使えるGIGAスクール環境、市原市ではそれを「最高」という。